

国語の力その6

2024. 8. 1

ある子どもが、文章Aを読み、次に文章Bを読み、そのあとで文章Cを読んだとする。このとき、二通りの学び方がある。一つは、A、B、Cをバラバラの文章として扱う学習である。もう一つが、A、B、Cの共通点を見つけていく学習である。どちらが、読む力をつけることができるだろうか。

バラバラに読む学習では、Aという文章を読んだらそれで終わり、Bという文章を読んだらそれで終わり、Cという文章を読んだらそれで終わりとなりがちである。こうなると、Aの理解度が5段階の2だとする。すると、Bの理解度も2、Cの理解度も2となるだろう。そして、新しい文章Dに出合ったときも、理解度は2のままである。従来の国語の授業が、これに近い。そもそも教科書の教材配列がそうなっている。物語の次に説明文がきてと、同じような文章は続かない。

一方、共通点を見つけていく学習ではどうなるだろうか。Aの理解度が2だとする。Bの理解度が3、Cの理解度は4になるかもしれない。なぜ、そうなるのか。Aという文章を読んだときに、他のどんな文章にも共通する論理的な読みの型（形式）、すなわち、論理的な読み方を学んでいるおかげで、BやCの文章でもその読み方を用いながら自分自身で読み解いていくことができるからである。新しい文章Dに出合ったとき、理解度は5になるかもしれない。

以前、先生方に対して、この共通点を見つけていく学習を説明したことがあった。教科書の教材配列が、この学習に適してはいない。では、どうするか。自分で、教材をもってくるのである。とはいっても、教科書と同じような教材を見つけるのは容易なことではない。そこで、他の教科書会社の教材を使うのである。国語の教科書は一つではない。数社から出ている。どの教科書も、だいたい同じような教材が入っている。これを使わない手はない。

国語力は、論理的思考力によって上がり始める。論理を意識しない国語の授業では、読み書きをどれだけ練習しても、ほとんど役には立たない。ハイレベルな問題集をやったとしても、原稿用紙100枚の作文を書いたとしても、さほどの成長は望めない。かけた時間と労力を考えると、割に合わない。だが、論理をひとたび意識すれば、問題集1冊であっても、原稿用紙1枚であっても、確実に力がつき始める。

国語の場合、書く力だけがグンと伸びる、読む力だけが伸びるとするのは考えにくい。論理的思考力がついてくれば、書く力、話す力、聞く力、読む力、文法の力、いずれも同時に、相乗的に上がり始める。論理の国語には、それだけの力がある。